

2026 年度 文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験
2026 年度 スポーツ能力に優れた者の特別選抜入学試験
「経営学部」

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

【文芸】

学科	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
経営学科	8	4	4

【スポーツ】

学科	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
経営学科	28	25	25

2. 試験内容

面接では、主に課外活動を通じた学び、学部の志望理由、学業と課外活動の両立について質問しました。また、口頭試問として、経営学部での具体的な学びに関する質問も行いました。

3. 出題意図

入試要項では、第2次選考について以下のように記載しています。

第1に、面接は「調査書と志望理由書をもとに行う」と記載しています。

第2に、口頭試問は「経営学部のアドミッション・ポリシーやカリキュラムへの理解度を確認します。その上で、将来の展望や目標、それを実現するための経営学部での具体的な学習計画などを確認します」と記載しています。

第3に、その他の留意点として「経営学部では、正課と課外の両立を強く求めます。経営学部は大阪いばらきキャンパス（OIC）を拠点としています。練習等の活動拠点がOICから離れている場合は、事前に生活や学習の計画を立てておくことが望まれます。なお、OICからびわこ・くさつキャンパス（BKC）及び衣笠キャンパスまでの移動には、それぞれ1時間以上を要することを確認してください」と記載しています。

第1次選考合格者には、第2次選考の面接試験（口頭試問含む）にあたり、「経営学部のホームページや学部のパンフレットを熟読し、経営学部のアドミッション・ポリシーやカリキュラム、経営学科のコースやインテンシブプログラムなどの特徴について十分に理解してください。そのうえで、経営学部で学びたいこと、そのための具体的な学習計画を確認します」と案内しました。

したがって、とくに口頭試問では、経営学部のホームページや学部パンフレットの内容を十分に理解していることを前提に、それらを踏まえ、経営学部での学びや具体的な学習計画につながっているかを評価することを意図しました。

4. 評価のポイント

面接では、課外活動を通じた学び、学部の志望理由、学業と課外活動の両立について抽象的な解答ではなく、自らの経験や実績に照らして具体的に構成され、論理的に応答できているかどうかを重視しました。経営学部での学習内容や方法について十分に理解した上で、それらと整合性をもって、入学後の学習など諸活動の計画が具体的に想定されているか、課外活動の活動拠点とキャンパスとの地理的關係を踏まえて学業と課外活動を両立させる方法が考えられているか、またそれらを踏まえた将来像を描いているのかに着目しました。

5. 解答状況

多くの受験生は、カリキュラムや授業内容を事前に確認したうえで、経営学部での学びについて理解していました。また、文化芸術・スポーツ活動と勉強を両立していく強い意志がみられました。

6. 次年度以降の受験生へのアドバイス

まず、経営学部での学びについて十分に理解を深めてください。入試要項や学部の Web サイト、パンフレットでは、アドミッション・ポリシー、カリキュラムや開講科目について、分かりやすく説明しています。そのうえで、経営学部での学びを自分の成長にいかにかかすかを考えるために、自分の経験や活動を振り返るとともに、今の関心と将来の希望を明らかにしてください。さらに、それらを単に知識として理解するだけでなく、自分なりの言葉で整理し、説明できるようにしておくことが重要です。

それを踏まえて、経営学部で何を学びたいのかについて具体的な目標を立て、受験に臨んでください。また、課外活動の活動拠点とキャンパスとの地理的關係を十分に把握し、活動拠点への移動に時間がかかる場合は、学習計画を具体的に考えておいてください。

7. 進路指導上の留意点（主に高校教員向けの入試指導上のポイント）

文芸・スポーツで入学した学生は、学生生活において、課外活動に多くの時間を割くことが見込まれます。しかし、多くの学生はその道でプロフェッショナルを目指すわけではなく、民間企業などへの一般就職をすることになります。文芸やスポーツを通じて人間性や集団性、分析力などが養われることが期待される一方で、着実に経営学を学ぶことが学生の将来にとって重要な意味をもつと考えています。

そうした学生生活を過ごすために、立命館大学経営学部で学びたいことを明確にし、課外活動以外の場面で多くの成長機会が得られるように積極的な学生生活を送るための準備を行えるようサポートをお願いします。また、課外活動の活動拠点とキャンパスとの地理的關係を把握して学業との両立に取り組めるように支援してください。

以上